

ロタウイルスワクチンの 任意接種費用の一部助成を実施します。



ロタウイルス感染症は、ロタウイルスによる急性胃腸炎です。多くは突然の嘔吐、発熱に続き、水様性下痢を起こします。発熱を伴うことも多く、回復には1週間ほどかかります。脱水症になる可能性が高く、無熱性けいれん、肝機能障害、腎不全、脳症等をまれに合併することもあり、脱水が強い場合や合併症を併発した場合には、入院が必要となることがあります。

ロタウイルスの予防接種は「任意接種(保護者の判断で接種するかどうか決めるもの)」であり、自費接種となります。品川区では、接種される方に接種費用の一部を助成します。

1. 助成対象となる接種年齢

- ・生後6週から24週0日までの区民で必要回数接種完了していない子(1価ワクチン)
 - ・生後6週から32週0日までの区民で必要回数接種完了していない子(5価ワクチン)
- ※期間を過ぎての接種はできません。(必ず同じワクチンで接種を完了してください)

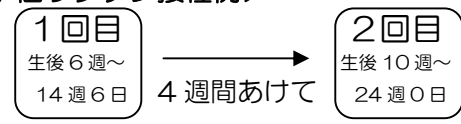
2. 助成額

1回 7,000円(一人2回まで)
※5価ワクチンの場合でも助成は2回まで

3. 接種スケジュール

2種類のワクチンがあり、必要回数、スケジュールが異なります。

<1価ワクチン接種例>



<5価ワクチン接種例>



※できるだけ14週と6日目までに1回目を受けてください。
※スケジュールについては、接種医師とご相談ください。

4. 助成の方法

品川区内の契約医療機関で接種する場合に限り助成があります。

※各医療機関の定める予防接種料金から、助成金額(7,000円)を差し引いた金額をお支払ください。

※接種の際は ①母子健康手帳 ②お子さんの健康保険証 をお持ちください。

※品川区以外で接種した任意予防接種(ロタウイルスワクチン)は、助成がありません。

全額自己負担となります。ご注意ください。

【重要：健康被害に対する救済措置について】

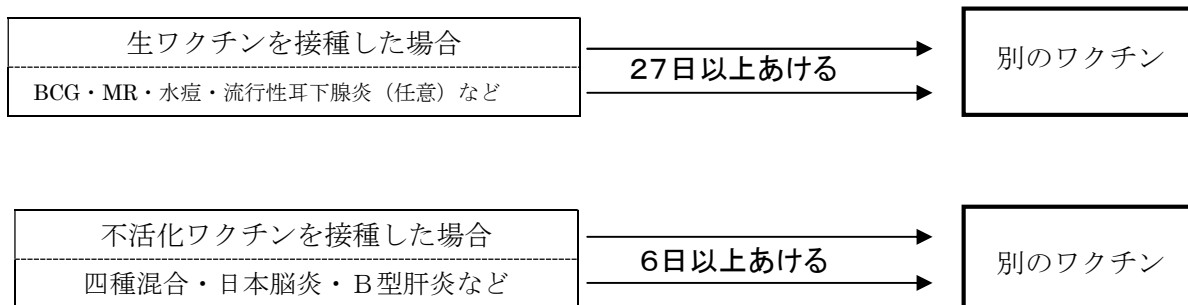
ロタウイルスワクチンは予防接種法に基づかない任意の予防接種です。このため、万一ワクチン接種による健康被害が発生した場合は、予防接種法の被害救済の対象にはなりません。独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく、副作用救済給付が適用されます。

日本国内で販売承認されていないワクチンは、救済制度の対象になりません。接種するときに、医師にワクチンについて確認をしてから接種を受けてください。

ロタウイルス感染症	
病気について	<p>ロタウイルス感染症は、ロタウイルスによる急性胃腸炎です。何度でも感染しますが、症状は初感染時が最も重症であり、主な症状は急性胃腸炎で、ときに脱水、けいれん、肝機能異常、腎不全、脳症等を合併します。</p> <p>日本でのロタウイルス感染症の発症は冬～春に多く見られますが、近年流行のシーズンが遅くなってきています。特に重症化しやすいのは生後4～23か月の乳幼児です。</p>
ワクチンについて	<p>【1価】ロタウイルス胃腸炎患者から分離したヒトロタウイルスを弱毒化し、培養細胞で増殖させて精製した後にシロップ状にした経口生ワクチンです。</p> <p>【5価】世界中で検出されている主要なヒトロタウイルスの5種類を考慮し、5つの中和抗原をそれぞれ発現するヒト-ウシロタウイルス再集合体を含む経口弱毒生ワクチンです。</p>
副反応	<p>国内臨床試験で接種後30日間に報告された主な副反応は、ぐずり(7.3%)、下痢(3.5%)、咳・鼻水(3.3%)があります。その他、発熱、食欲不振、嘔吐などがあらわれることがあります。また海外での研究によると、10万人の被接種児当たり最大6人の腸重積症が増加することが推計されています。しかし、ワクチンに関連した腸重積症の重篤度が高いということはありませんでした。</p>

【異なった種類のワクチンを接種する場合の間隔】

予防接種で使うワクチンは「生ワクチン」と「不活化ワクチン」があり、ワクチンを接種した後に別のワクチンを接種する場合には、間隔を守ることが必要です。



【同時接種について】

医師が必要と認めた場合には、同時接種することができます。接種する医師にご相談ください。

品川区では、生後2ヶ月の時に、定期予防接種のHibワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、四種混合ワクチンの予診票をお送りしています。接種スケジュール等については、接種医師とご相談ください。

【問い合わせ先】

品川区保健所保健予防課	5742-9152	品川保健センター	3474-2225
大井保健センター	3772-2666	荏原保健センター	3788-7013

【品川区ホームページ】

品川区 予防接種

検索